

中学生が自衛隊の音楽隊と交流を図る



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之（一等陸佐））は、1月23日（水）、清水町地域交流センターで開催された「清水町自衛隊協力会40周年記念事業」を支援した。

当日は、静岡地本部長の記念講演や航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松基地）による記念演奏会が実施されるとともに、静岡地本は災害派遣活動のパネル展示、自衛官の募集制度説明ブースを設置した。

演奏会に先立ち行われた音楽隊のリハーサルでは地元の中学校2校からブラスバンド部の学生66名を招き、リハーサル見学と各楽器に分かれた個別指導が行われた。学生達は自分と同じ楽器を担当する音楽隊員から技術的・精神的なアドバイスを指導等を直接受けるとともに、少しでも吸収できるものを見つけようと熱心に質問をする等、音楽隊のプロフェッショナルから多くのことを学んでいる様子であった。

参加した学生からは「個別指導を受けてコツ等も吸収でき、とても参考になった」「隊員の方々の経験談が勉強になった」等の感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も各自治体や協力団体との連携を強化し、各種イベント等での広報活動を積極的に実施していくとともに、学生をはじめとする多くの若者に自衛隊と触れ合ってもらい、熱意ある志望者の確保に努めていく。

護衛艦「いかづち」の内火艇を体験乗艇



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之（一等陸佐））は、1月23日（水）、伊東港沖で実施された護衛艦「いかづち」の「内火艇」体験乗艇に、自衛官志望の学生や協力者等を引率して参加した。

「内火艇」とは、一般に護衛艦に搭載されている小型船舶のことであり、人員や物資の輸送、他艦艇への連絡等に使用される。

当初、伊東港沖に停泊中の護衛艦「いかづち」の艦内見学を予定していたが、天候不良で中止となったため、県内各地から集まった募集対象者のために急遽護衛艦付近までの内火艇の体験乗艇となった。

参加者は救命胴衣を着用して内火艇に乗り込み、海上自衛官による護衛艦「いかづち」や内火艇の説明を聞きながら護衛艦の近傍まで体験乗艇をした。

参加者からは「護衛艦の内部見学は出来なかったが、滅多に乗る機会がない内火艇に乗艇できて貴重な経験が出来た」「このような波が高い状況でも艇を扱える高い技術に感心した」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も自衛隊の現場や実物を見学する機会を積極的に活用し、自衛隊ならではの魅力をより深く理解してもらうとともに、自衛官を目指す若者の確保に努めていく。